

会 議 の 要 旨 (議 事 録)

会議の名称	勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会		
開催日時	令和5年9月1日(金) 13:30~16:30	開催場所	鳥栖市役所 3階大会議室3
出席者数	委員 6人(欠席者1名) 佐賀県 2人 事務局 6人	傍聴人数	0人
議 題	筑紫氏館跡地区の発掘調査(現地視察)		
配布資料	令和5年度第1回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会資料		
所 管 課	(課名) 生涯学習課 (電話番号) 85-3695		

(事務局) 概要説明後、今年度調査地点の筑紫氏館跡地区の現地視察

※現地視察後の質疑応答

●発掘調査計画地について

(委員)

トレンチ1は、現況で窪んだ箇所があり通路の可能性があるために、南北方向にトレンチを設定しているが、左右の土塁状までを把握するため、東西方向にトレンチを設定した方が良い。

トレンチ3・5は、通路の確認を行うためだと思うが、もう少し土塁との関係を把握するために広げた方がより分かると思う。

トレンチ2・4・6は、平場の設定場所は良いかと思う。

(委員)

発掘調査に入る前に、古地図や航空写真等で土地状況を事前に確認していた方が良い。それと平場③の石垣の石材が大きく、勝尾城(戦国時代)の石垣の様相ではないが、虎口aの西側の石垣の延長上にあたるので、石垣のライン(基底面)は活着している可能性があるかもしれない。

●豪雨被災について

(委員)

虎口aから虎口bにかけての沢は、雨水で浸食され以前より大分酷くなっているので、水が流れ込まないようにする排水措置を講じないといけないと思った。

(委員)

近年の大雨被害の中で、土砂堆積量が今回一番酷かったようである。その原因の1つに昨年館跡の上流部にある林道の法面が土砂崩れして、崩れた土砂で雨水の排水が出来ず、土砂とともに館跡に流入して大きな被害になったと思われる。今後、事務局で流水量調査を計画しているよ

うなので、その結果を踏まえながら対策を考えていかないといけない。
今回堆積した土砂はどうするのか。

(事務局)

現況では重機搬入と土砂の搬出処分費の問題があるので、当面は現状のままにしておくことになる。

(委員)

直ぐには対応が難しいとは思いますが、これから台風シーズンになるので、コルゲート管の復旧、側溝内の土砂浚渫、流路を塞ぐ流木の除去等の排水路の復旧を先ずは行っていただくと、被害は抑えられると思う。

(委員)

山(林道)を管理している農林部局とは何か協議や対応をしているのか。

(事務局)

山そのものについての協議は行っていないが、林道から館跡に流れる溪流の排水施設については、大雨で土砂や木枝等で側溝が埋まった時には連絡してその都度浚渫している。

(佐賀県)

今回の発掘調査の目的は、通路の解明と平場の遺構面確認であるが、限られたトレンチなので、どのくらい把握できるのか。また先程ご意見がありましたように地形や写真等の周辺情報を踏まえて行っていただきたい。

館跡の流量調査については、文化庁から先ず進めていくように指導を受けている。現在、鳥栖市の方で来年度の補助事業の概算要求中である。

(委員)

広域林道の山側斜面が崩壊していることが今回の原因であるならば、林道管理者に土砂撤去を求めてもよいのではないか。

(事務局)

林道管理者がするのは当然であるが、路線間で何カ所も土砂崩れが発生しているので、抜本的に復旧するには短期では難しいと考える。

(委員)

館跡に影響を与えているのは全線ではなく、一部区間なので少なくともその部分是对応できるのではないか。

(事務局)

重々認識しているが、林道復旧も優先順位があるので、その点を踏まえて要望していきたい。

(委員)

館跡については、現状で直ぐに整備はできないと思った。今回の被災状況を見て、出来るだけ早く土砂の除去と排水の流れの手立てを検討して防災対策を行っていただきたい。

(委員)

近年、広域的な城跡等の調査に航空レーザー測量の赤色立体図の作成が一般化している。この赤色立体図を作成すれば、今まで思いもよらなかった場所に新たに重要遺構が見つかることがある。今後の発掘調査や保存整備の基礎データになるし、地形状況がよく分かるので災害時にも把握できるのでご検討をいただきたい。

(委員)

今後の流水量調査を行う予定とのことであるが、水の流れはもちろんだが、今回の被災では土砂の流入量が多く、この土砂が何処から流れてきたのかを把握する必要があるため、館跡の周辺範囲も検討した方が良い。

●今後の調査・整備の進め方について

(委員)

来年度に調査報告書を作成した後はどうするのか。

(事務局)

発掘調査事業については、進めて行きたいと考えている。

(委員)

発掘調査をやらなかった時に比べると一歩前進なのかもしれないが、何のための調査なのかが分からないままこの間事業を行っているように感じる。そういった中で、今後の保存整備事業について、例えば当初の整備基本計画を見直すのか、止めるのかなどを踏まえて、そろそろ明確にしていきたい。

(委員)

きっちりとした山城整備（復元的）が1箇所でもあれば来訪者が増えるようになると思うが、現状で山城を散策できる葛籠城でも一部の公開に止まっている。また管理面においてもかなり厳しいように感じる。

(委員)

現状の勝尾城では観光資源としてはなりようがないが、情報発信をどんどんやっていかないと、優れた遺跡でも一般市民には伝わらないので、資料展示や説明会、シンポジウムなどの情報発信は積極的に進めていきたい。